

自然の中でのスポーツ体験が育む環境保全意識

STSC SEA TO SUMMIT for Children

世界の諸課題に対応するため国連はSDGsを定め、世界はその達成に向け尽力している。この達成の鍵といわれているのが持続可能な開発のための教育ESDである。我が国においても教育・指導要領に明記される等その重要性が高まっている。ESDでは個人の意識変容による具体的行動の促進を通じ、持続可能な社会構築への参画による変革を目指している。

そこで、青少年教育に何かが出来るのかが問題となるが、AjzenやSchwartz等により提唱された行動理論、広瀬による環境配慮行動の2段階モデルが、我々青少年教育施設が行うESDの理論的背景となり得る。

また、佐々木は屋外での体験活動の効果を論じ、武は野外レクリエーションと環境保全意識と環境配慮行動の関係について述べている。

一方、我々青少年教育施設の周辺には自然の大循環を学べる自然、地域の伝統文化や生業といった教育資源を有し、また、これらを体験的に学べるアクティビティも有している。

そこで、環境保全の啓発と親和性の高い屋外スポーツ活動を通じ、自然の大循環とその地域の生活や生業、伝統文化を体験的に学ぶことで、地域の持続可能性について考え、それぞれの立場で具体的に行動できる「持続可能な社会の創り手」育成を行うプロジェクト「STSC」を立ち上げる。その成果は全国の青少年教育施設へ届け、全国的ムーブメントの基礎とする。



ESDとしてのSTSCの展開要素

- 地域資源と生活を体験するアクティビティ
- 水域～流域～水源を体験するアクティビティ
- 環境保全や地域循環を担う大人との交流
- これからの行動計画案づくり